(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2011-224145
(P2011-224145A)
(43)公開日　平成23年11月10日(2011.11.10)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A47J 47/20	(2006.01)	A47J 47/20		F	4B066
A47J 47/00	(2006.01)	A47J 47/00		A	

審査請求 未請求　請求項の数 9　ＯＬ　（全 18 頁）

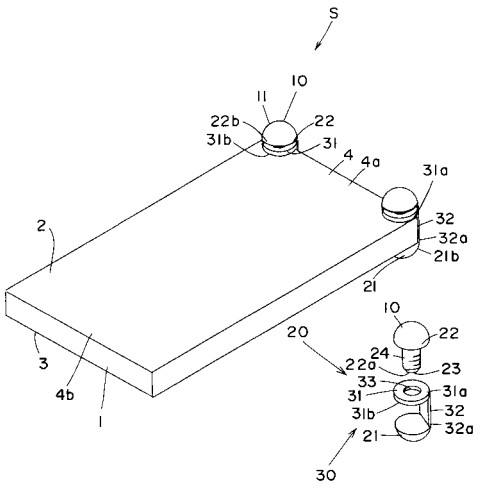
(21)出願番号　特願2010-96733(P2010-96733)
(22)出願日　平成22年4月20日(2010.4.20)

(71)出願人　508031601
吉田　喜美子
岩手県盛岡市緑が丘二丁目１５－２６
(74)代理人　100093148
弁理士　丸岡　裕作
(72)発明者　吉田　喜美子
岩手県盛岡市緑が丘二丁目１５－２６

Ｆターム(参考)　4B066 CC04　EE32

(54)【発明の名称】まな板用アタッチメント

(57)【要約】
【課題】　まな板の厚さに関わらず一方当接体及び他方当接体をまな板の表裏面に確実に当接させるようにしてまな板に対して強固に取り付けることができるようにし、まな板を載置面に載置したときの固定安定性の向上を図る。
【解決手段】　まな板１の端部４を載置面に対して支承する支承部１０と、支承部１０をまな板１の端部４に取り付ける取付部２０とを備え、取付部２０を、まな板１の表裏面２、３のいずれか一方に当接する当接面を有した一方当接体２１と、まな板１の表裏面２、３のいずれか他方に当接する当接面を有した他方当接体２２と、一方当接体２１及び他方当接体２２をまな板１の表裏面２、３に直交する方向に近接，離間可能に接続し近接時に一方当接体２１及び他方当接体２２によりまな板１の端部４を挟持させる挟持手段３０とを備えて構成した。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
表裏面を有し載置面に載置されて用いられるまな板の端部に着脱可能に取り付けられ、該まな板の端部を上記載置面に対して支承する支承部と、該支承部を上記まな板の端部に取り付ける取付部とを備えたまな板用アタッチメントにおいて、
上記取付部を、上記まな板の表面及び裏面のいずれか一方に当接する当接面を有した一方当接体と、上記まな板の表面及び裏面のいずれか他方に当接する当接面を有した他方当接体と、該一方当接体及び他方当接体を上記まな板の表裏面に直交する方向に近接，離間可能に接続し近接時に当該一方当接体及び他方当接体により上記まな板の端部を挟持させる挟持手段とを備えて構成し、
上記支承部を、上記一方当接体及び他方当接体の少なくともいずれか一方に設けたことを特徴とするまな板用アタッチメント。
【請求項２】
上記支承部の上記載置面に接触する外面を弧面に形成したことを特徴とする請求項１記載のまな板用アタッチメント。
【請求項３】
上記支承部を、上記一方当接体及び他方当接体の両方に形成したことを特徴とする請求項１または２記載のまな板用アタッチメント。
【請求項４】
上記挟持手段を、上記一方当接体に設けられ上記一方当接体の当接面に所定間隔離間して対面する横板と、該横板の一端を該一方当接体に支持する支持材と、上記横板に形成され上記当接面に直交する軸心を有した雌ネジ部と、上記他方当接体を構成し先端面を上記当接面とし該当接面に直交する軸心を有した雄ネジ部とを備えて構成したことを特徴とする請求項１乃至３何れかに記載のまな板用アタッチメント。
【請求項５】
上記挟持手段を、上記一方当接体及び他方当接体間に設けられ、付勢力により上記一方当接体及び他方当接体を近接させて上記まな板の端部を挟持させ、付勢力に抗して上記一方当接体及び他方当接体を離間させたとき上記の挟持を解除可能にする弾性部材で構成したことを特徴とする請求項１乃至３何れかに記載のまな板用アタッチメント。
【請求項６】
上記挟持手段を、上記一方当接体の当接面に支持され該当接面に直交する軸心を有した一方雄ネジ部と、上記他方当接体の当接面に支持され該当接面に直交する軸心を有し上記一方雄ネジ部に対して逆ネジに形成される他方雄ネジ部と、上記一方雄ネジ部及び他方雄ネジ部に夫々螺合される一方雌ネジ及び他方雌ネジを有し一方向回転時に上記一方雄ネジ部及び他方雄ネジ部を近接させ他方向回転時に上記一方雄ネジ部及び他方雄ネジ部を離間させるナットとを備えて構成したことを特徴とする請求項１乃至３何れかに記載のまな板用アタッチメント。
【請求項７】
上記挟持手段を、頭部を有するとともに少なくとも先端部に雄ネジが形成されたボルトと、該ボルトの雄ネジに螺合する雌ネジを有したナットと、上記一方当接体の端部から上記当接面に連続して外方に突出し上記ボルトが挿通されるボルト挿通孔が形成された一方突出部と、上記他方当接体の端部から上記当接面に連続して外方に突出し上記ボルトが挿通されるボルト挿通孔が形成された他方突出部とを備えて構成したことを特徴とする請求項１乃至３何れかに記載のまな板用アタッチメント。
【請求項８】
上記挟持手段を、上記一方当接体に設けられ上記一方当接体の当接面に平行な方向に延びて設けられる横架材と、該横架材の一端を上記一方当接体に支持する支持部材と、上記他方当接体に上記当接面に直交する方向に所定間隔で複数設けられ上記横架材が差し込まれて係合される係合部とを備えて構成したことを特徴とする請求項１乃至３何れかに記載のまな板用アタッチメント。

【請求項９】
上記挟持手段を、上記一方当接体及び他方当接体の端部に夫々上記当接面に直交する方向に立設され互いに上記当接面に直交する方向に相対移動可能に接合される支柱と、該支柱の一方に上記当接面に直交する方向に所定間隔で突出形成される複数の係合凸部と、上記支柱の他方に上記当接面に直交する方向に所定間隔で形成され上記係合凸部が係合される複数の係合凹部とを備えて構成したことを特徴とする請求項１乃至３何れかに記載のまな板用アタッチメント。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、表裏面を有して載置面に載置されて用いられるまな板の端部に着脱可能に取り付けられるまな板用アタッチメントに係り、特に、まな板の端部を載置面に対して支承してまな板の表裏面が載置面に接触しないようにしたまな板用アタッチメントに関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、この種のまな板用アタッチメントとしては、例えば、特許文献１（実開昭６１－８６１４４号公報）に記載されたものが知られている。
図１３に示すように、このまな板用アタッチメントＳａは、表面１０１及び裏面１０２を有し載置面Ｍａに載置されて用いられるまな板１００の端部１０３に着脱可能に取り付けられ、まな板１００の端部１０３を載置面Ｍａに対して支承する支承部１１０と、支承部１１０をまな板１００の端部１０３に取り付ける取付部１２０とを備えて構成されている。
取付部１２０は、まな板１００の表面１０１及び裏面１０２のいずれか一方に当接する当接面１２１を有した一方当接体１２２と、まな板１００の表面１０１及び裏面１０２のいずれか他方に当接する当接面１２３を有した他方当接体１２４と、一方当接体１２２及び他方当接体１２４をまな板１００の表面１０１及び裏面１０２に対して近接，離間可能にするクリップ機構１３０とを備えて構成されている。このクリップ機構１３０は、棒状の軸体１３１と、軸体１３１の軸線を中心に回動可能に設けられ一端が一方当接体１２２に接続される一方回動部材１３２と、軸体１３１の軸線を中心に回動可能に設けられ一端が他方当接体１２４に接続される他方回動部材１３３とを備えて構成されている。また、支承部１１０は、一方当接体１２２及び他方当接体１２４の少なくともいずれか一方に設けられている。
【０００３】
このまな板用アタッチメントＳａをまな板１００に取り付けるときは、一方回動部材１３２と他方回動部材１３３とを把持し、一方回動部材１３２の他端と他方回動部材１３３の他端とを近接させて一方当接体１２２と他方当接体１２４とを離間させる。このとき、一方当接体１２２及び他方当接体１２４は軸体１３１の軸線を中心に円弧を描くように回動する。この状態で、一方当接体１２２の当接面１２１及び他方当接体１２４の当接面１２３間にまな板１００の端部１０３が差し込まれるようにし、一方回動部材１３２の他端と他方回動部材１３３の他端とを離間させて一方当接体１２２と他方当接体１２４とを近接させる。このときも、一方当接体１２２及び他方当接体１２４は軸体１３１の軸線を中心に円弧を描くように回動する。これにより、まな板用アタッチメントＳａをまな板１００に取り付けることができる。
このまな板用アタッチメントＳａを、まな板１００の一端部側のみに取り付けて使用すると、支承部１１０がまな板１００の一端部側のみを持ち上げて支承し、まな板１００の他端部側の下端縁が載置面Ｍａに支持されるようになるので、まな板１００が載置面Ｍａに対して傾斜して載置されるようになり、そのため、例えば、水洗いした野菜等の食材から落ちた水が、調理する面を流下してまな板から流れ落ちるようになるので、まな板１００及び食材の水切れが良くなる。また、調理する面に水を注ぐことで水が流下することから、まな板１００を載置面Ｍａに載置したまま比較的簡単に洗うことができる。

また、このまな板用アタッチメントＳａを、まな板１００の一端部側及び他端部側の両端部側に取り付けて使用すると、支承部１１０がまな板１００の一端部側及び他端部側の両端部側を持ち上げて支承するようになるので、まな板１００の載置面Ｍａに対峙する面が載置面Ｍａに平行且つ載置面Ｍａから離間した状態となり、そのため、載置面Ｍａに対峙する面は衛生的で綺麗であるので、調理した面が汚れた場合に、まな板１００の表面１０１及び裏面１０２を逆にすることで綺麗な面で調理を行なうことができるようになり、逐一まな板１００を洗わなくても使用できるようになり、それだけ、調理の手間を省くことができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００４】

【特許文献１】実開昭６１－８６１４４号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

しかしながら、この従来のまな板用アタッチメントＳａにおいては、まな板１００の端部１０３に取り付ける際に、一方当接体１２２及び他方当接体１２４が軸体１３１の軸線を中心に円弧を描くように回動するので、厚さが厚いまな板１００に取り付けると、図１３（Ｂ）に示すように、一方当接体１２２の当接面１２１及び他方当接体１２４の当接面１２３がまな板１００の上端縁１０４及び下端縁１０５に衝突して、一方当接体１２２の当接面１２１及び他方当接体１２４の当接面１２３がまな板１００の表面１０１及び裏面１０２に接合しないことがあり、そのため、載置面Ｍａにまな板１００を載置したとき、支承部１１０の載置面Ｍａに対する接触が不安定になり易く、それだけ、まな板１００の載置面Ｍａに対する固定安定性に劣るという問題があった。また、厚さが薄いまな板１００に取り付ける場合は、図１３（Ｃ）に示すように、一方当接体１２２及び他方当接体１２４がまな板１００の表面１０１及び裏面１０２に対して傾斜して取り付けられるようになるので、一方当接体１２２の当接面１２１及び他方当接体１２４の当接面１２３がまな板１００の表面１０１及び裏面１０２に接合しなくなり、この場合も、載置面Ｍａにまな板１００を載置したときに支承部１１０の載置面Ｍａに対する接触が不安定になり易く、まな板１００の載置面Ｍａに対する固定安定性が悪い。

また、まな板１００の厚さによって一方当接体１２２の当接面１２１及び他方当接体１２４の当接面１２３がまな板１００の表面１０１及び裏面１０２に接合しないことがあることから、この場合、一方当接体１２２及び他方当接体１２４でのまな板１００の挟持が不十分になるので、まな板１００に対して強固に取り付けることができないという問題もあった。

【０００６】

本発明は、このような問題点に鑑みてなされたもので、まな板の厚さに関わらず一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面をまな板の表裏面に確実に当接させるようにし、まな板に対して強固に取り付けることができるようにするとともに、まな板を載置面に載置したときの固定安定性の向上を図ったまな板用アタッチメントを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

このような目的を達成するため、本発明のまな板用アタッチメントは、表裏面を有し載置面に載置されて用いられるまな板の端部に着脱可能に取り付けられ、該まな板の端部を上記載置面に対して支承する支承部と、該支承部を上記まな板の端部に取り付ける取付部とを備えたまな板用アタッチメントにおいて、上記取付部を、上記まな板の表面及び裏面のいずれか一方に当接する当接面を有した一方当接体と、上記まな板の表面及び裏面のいずれか他方に当接する当接面を有した他方当接体と、該一方当接体及び他方当接体を上記まな板の表裏面に直交する方向に近接，離間可能に接続し近接時に当該一方当接体及び他

方当接体により上記まな板の端部を挟持させる挟持手段とを備えて構成し、上記支承部を、上記一方当接体及び他方当接体の少なくともいずれか一方に設けた構成としている。

【０００８】

これにより、本発明のまな板用アタッチメントをまな板に取り付けるときは、一方当接体及び他方当接体を離間させた状態で、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面間にまな板の端部が差し込まれるようにし、挟持手段により一方当接体及び他方当接体をまな板の表裏面に直交する方向に近接させて一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面をまな板の表裏面に当接させて挟持させる。

この場合、一方当接体及び他方当接体はまな板の表裏面に直交する方向に近接するので、まな板の厚さに関わらず、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面をまな板の表裏面に接合させて確実に当接させることができる。そのため、載置面にまな板を載置したとき、支承部の載置面に対する接触が安定し、それだけ、まな板の載置面に対する固定安定性を向上させることができる。また、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面をまな板の表裏面に確実に当接させることができるので、一方当接体及び他方当接体で確実にまな板を挟持することができ、そのため、一方当接体及び他方当接体をまな板に対して強固に取り付けることができる。

【０００９】

本発明のまな板用アタッチメントは、その使用の仕方で、取り付けの数及び取付け部位を適宜定める。例えば、このまな板用アタッチメントを一対用い、まな板の一端部若しくは他端部のどちらか一方のみに取り付けて使用するときは、一方当接体及び他方当接体のうち支承部が設けられている方を載置面側にして、まな板を載置面に載置する。まな板を載置すると、支承部と、本まな板用アタッチメントが取り付けられていないまな板の一端部若しくは他端部の下側縁とが載置面に接触し、まな板は載置面に対して傾斜して載置されるようになる。

この状態でまな板を使用すると、まな板は載置面に対して傾斜して載置されているので、例えば、水洗いした野菜等の食材から落ちた水が、調理する面を流下してまな板から流れ落ちるようになり、そのため、まな板及び食材の水切れが良くなる。また、調理する面に水を注ぐことで水が流下することから、まな板を載置面に載置したまま比較的簡単に洗うことができる。更に、一方当接体及び他方当接体は着脱可能に形成されているので、一方当接体及び他方当接体を取り外せば、傾斜のない普通のまな板として用いることができる。

【００１０】

また、本発明のまな板用アタッチメントをまな板の一端部及び他端部の両方に取り付けて使用するときは、一方当接体及び他方当接体のうち支承部が設けられている方を載置面側にして、まな板を載置面に載置する。まな板を載置すると、まな板の一端部及び他端部に設けられた支承部が載置面に接触し、まな板は載置面に対峙する面が載置面に平行且つ載置面から離間した状態で載置されるようになる。

この状態でまな板を使用すると、まな板は載置面に対峙する面が載置面から離間して載置されているので、この載置面に対峙する面は衛生的で綺麗であり、そのため、調理した面が汚れた場合に、まな板の表裏面を逆にすることで綺麗な面で調理を行なうことができるようになり、逐一まな板を洗わなくても使用できるようになり、それだけ、調理の手間を省くことができる。

【００１１】

そして、必要に応じ、上記支承部の上記載置面に接触する外面を弧面に形成した構成としている。

これにより、支承部の外面は弧面に形成されているので、載置された状態では、支承部と載置面とが確実に接触し、そのため、支承部の載置面に対する接触が安定するので、まな板の載置面に対する固定安定性をより一層向上させることができる。

【００１２】

また、必要に応じ、上記支承部を、上記一方当接体及び他方当接体の両方に形成した構

成としている。
　これにより、まな板の表面及び裏面の両面に支承部が設けられるので、まな板の表面と裏面とが特定されず、どちらの面も同様に使用することができる。
【００１３】
　更に、必要に応じ、上記挟持手段を、上記一方当接体に設けられ上記一方当接体の当接面に所定間隔離間して対面する横板と、該横板の一端を該一方当接体に支持する支持材と、上記横板に形成され上記当接面に直交する軸心を有した雌ネジ部と、上記他方当接体を構成し先端面を上記当接面とし該当接面に直交する軸心を有した雄ネジ部とを備えた構成としている。
【００１４】
　これにより、本まな板用アタッチメントをまな板に取り付けるときは、例えば、一方当接体の当接面と横板との間の空間にまな板の端部が差し込まれるようにし、一方当接体の当接面をまな板の表裏面のいずれか一方に当接させる。この状態で、他方当接体を、その雄ネジ部を横板に形成された雌ネジ部に捻じ込んでいく。この場合、他方当接体は、その軸心がまな板の表裏面に直交する方向に沿う方向となって、その先端面が一方当接体の当接面に向かって近接していく。そして、他方当接体を捻じ込んでいくと、その先端面がまな板の表裏面のいずれか他方に当接する。これによって、一方当接体と他方当接体とでまな板を強固に挟持して取り付けることができる。
　これによっても上記と同様の効果を奏する。
【００１５】
　更にまた、必要に応じ、上記挟持手段を、上記一方当接体及び他方当接体間に設けられ、付勢力により上記一方当接体及び他方当接体を近接させて上記まな板の端部を挟持させ、付勢力に抗して上記一方当接体及び他方当接体を離間させたとき上記の挟持を解除可能にする弾性部材で構成している。
【００１６】
　これにより、本まな板用アタッチメントをまな板に取り付けるときは、例えば、一方当接体及び他方当接体を把持し、一方当接体及び他方当接体を弾性部材の付勢力に抗して離間させ、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面間にまな板の端部が差し込まれるようにし、この状態で、一方当接体及び他方当接体の把持を解除する。これによって、一方当接体及び他方当接体は、弾性部材の付勢力によってまな板の表裏面に直交する方向に近接し、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面がまな板の表裏面に当接するようになるので、一方当接体と他方当接体とでまな板を強固に挟持して取り付けることができる。
　これによっても上記と同様の効果を奏する。
【００１７】
　そして、また、必要に応じ、上記挟持手段を、上記一方当接体の当接面に支持され該当接面に直交する軸心を有した一方雄ネジ部と、上記他方当接体の当接面に支持され該当接面に直交する軸心を有し上記一方雄ネジ部に対して逆ネジに形成される他方雄ネジ部と、上記一方雄ネジ部及び他方雄ネジ部に夫々螺合される一方雌ネジ及び他方雌ネジを有し一方向回転時に上記一方雄ネジ部及び他方雄ネジ部を近接させ他方向回転時に上記一方雄ネジ部及び他方雄ネジ部を離間させるナットとを備えた構成としている。
【００１８】
　これにより、本まな板用アタッチメントをまな板に取り付けるときは、例えば、一方雄ネジ部及び他方雄ネジ部にナットの一方雌ネジ及び他方雌ネジを夫々螺合させて一方当接体の当接面と他方当接体の当接面との距離をまな板の厚さより長く保持しておく。この状態で、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面間にまな板の端部が差し込まれるようにし、その後、ナットを一方向に回転させる。これによって、一方雄ネジ部及び他方雄ネジ部がナットに捻じ込まれて一方当接体及び他方当接体がまな板の表裏面に直交する方向に近接していき、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面がまな板の表裏面に当接するようになるので、一方当接体と他方当接体とでまな板を強固に挟持して取り付けることができる。

これによっても上記と同様の効果を奏する。

【００１９】

また、必要に応じ、上記挟持手段を、頭部を有するとともに少なくとも先端部に雄ネジが形成されたボルトと、該ボルトの雄ネジに螺合する雌ネジを有したナットと、上記一方当接体の端部から上記当接面に連続して外方に突出し上記ボルトが挿通されるボルト挿通孔が形成された一方突出部と、上記他方当接体の端部から上記当接面に連続して外方に突出し上記ボルトが挿通されるボルト挿通孔が形成された他方突出部とを備えた構成としている。

【００２０】

これにより、本まな板用アタッチメントをまな板に取り付けるときは、例えば、一方突出部のボルト挿通孔及び他方突出部のボルト挿通孔にボルトを挿通して一方当接体の当接面と他方当接体の当接面との距離をまな板の厚さより長く保持しておく。この状態で、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面間にまな板の端部が差し込まれるようにし、その後、ボルトの雄ネジにナットの雌ネジを螺合させて捻じ込んでいく。これによって、一方当接体及び他方当接体がまな板の表裏面に直交する方向に近接していき、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面がまな板の表裏面に当接するようになるので、一方当接体と他方当接体とでまな板を強固に挟持して取り付けることができる。

これによっても上記と同様の効果を奏する。

【００２１】

更に、必要に応じ、上記挟持手段を、上記一方当接体に設けられ上記一方当接体の当接面に平行な方向に延びて設けられる横架材と、該横架材の一端を上記一方当接体に支持する支持部材と、上記他方当接体に上記当接面に直交する方向に所定間隔で複数設けられ上記横架材が差し込まれて係合される係合部とを備えた構成としている。

【００２２】

これにより、本まな板用アタッチメントをまな板に取り付けるときは、例えば、一方当接体の当接面及び横架材間の空間にまな板の端部が差し込まれるようにし、一方当接体の当接面をまな板の表裏面のいずれか一方に当接させる。この状態で、他方当接体を、その係合部を横架材に係合させる。このとき、他方当接体の当接面がまな板の表裏面のいずれか他方に当接するように、複数設けられた係合部のうちから最適な係合部を選択して係合させる。この複数の係合部は、まな板の表裏面に直交する方向に所定間隔で設けられているので、一方当接体及び他方当接体をまな板の表裏面に直交する方向に近接，離間させることが可能となり、そのため、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面を確実にまな板の表裏面に当接させることができるようになるので、一方当接体と他方当接体とでまな板を強固に挟持して取り付けることができる。

これによっても上記と同様の効果を奏する。

【００２３】

更にまた、必要に応じ、上記挟持手段を、上記一方当接体及び他方当接体の端部に夫々上記当接面に直交する方向に立設され互いに上記当接面に直交する方向に相対移動可能に接合される支柱と、該支柱の一方に上記当接面に直交する方向に所定間隔で突出形成される複数の係合凸部と、上記支柱の他方に上記当接面に直交する方向に所定間隔で形成され上記係合凸部が係合される複数の係合凹部とを備えた構成としている。

【００２４】

これにより、本まな板用アタッチメントをまな板に取り付けるときは、例えば、一方当接体及び他方当接体のいずれか一方の当接面を、まな板の表裏面のいずれか一方に当接させ、その後、一方当接体及び他方当接体のいずれか他方の当接面がまな板の表裏面のいずれか他方に当接するように、一方当接体及び他方当接体のいずれか一方の支柱の係合凸部と一方当接体及び他方当接体のいずれか他方の支柱の係合凹部とを係合させる。このとき、係合凸部及び係合凹部はまな板の表裏面に直交する方向に所定間隔で複数設けられているので、一方当接体及び他方当接体を相対移動させて、複数の係合凸部及び係合凹部のうちから最適な係合凸部及び係合凹部を選択して係合させる。即ち、一方当接体及び他方当

接体をまな板の表裏面に直交する方向に近接，離間させることが可能となり、そのため、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面を確実にまな板の表裏面に当接させることができるようになるので、一方当接体と他方当接体とでまな板を強固に挟持して取り付けることができる。

これによっても上記と同様の効果を奏する。

【発明の効果】

【００２５】

本発明のまな板用アタッチメントによれば、一方当接体及び他方当接体を離間させた状態で、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面間にまな板の端部が差し込まれるようにし、挟持手段により一方当接体及び他方当接体をまな板の表裏面に直交する方向に近接させてまな板に取り付けるので、まな板の厚さに関わらず、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面をまな板の表裏面に接合させて確実に当接させることができる。そのため、載置面にまな板を載置したとき、支承部の載置面に対する接触が安定し、それだけ、まな板の載置面に対する固定安定性を向上させることができる。また、一方当接体の当接面及び他方当接体の当接面をまな板の表裏面に確実に当接させることができるので、一方当接体及び他方当接体で確実にまな板を挟持することができ、そのため、一方当接体及び他方当接体をまな板に対して強固に取り付けることができる。

【図面の簡単な説明】

【００２６】

【図１】本発明の第一の実施の形態に係るまな板用アタッチメントをまな板に取り付けた状態で示す斜視図である。

【図２】本発明の第一の実施の形態に係るまな板用アタッチメントを示し、（Ａ）は通常状態、（Ｂ）はまな板の端部が差し込まれた状態、（Ｃ）は一方当接体と他方当接体とでまな板を挟持した状態を示す図である。

【図３】本発明の第一の実施の形態に係るまな板用アタッチメントをまな板の一端部若しくは他端部のどちらか一方のみに取り付けた状態で示す図である。

【図４】本発明の第一の実施の形態に係るまな板用アタッチメントをまな板の一端部及び他端部の両方に取り付けた状態で示す図である。

【図５】本発明の第一の実施の形態に係るまな板用アタッチメントをまな板の一端部若しくは他端部のどちらか一方のみに取り付けたときの使用状態を示す図である。

【図６】本発明の第一の実施の形態に係るまな板用アタッチメントをまな板の一端部及び他端部の両方に取り付けたときの使用状態を示す図である。

【図７】本発明の第二の実施の形態に係るまな板用アタッチメントであって、弾性部材としてコイルスプリングを用いた場合のまな板用アタッチメントを示し、（Ａ）は弾性部材の付勢力により一方当接体と他方当接体とが近接した状態、（Ｂ）は弾性部材の付勢力に抗して一方当接体と他方当接体とを離間させた状態、（Ｃ）はまな板の端部が差し込まれた状態、（Ｄ）は一方当接体と他方当接体とでまな板を挟持した状態を示す図である。

【図８】本発明の第二の実施の形態に係るまな板用アタッチメントであって、弾性部材として輪ゴムを用いた場合のまな板用アタッチメントを示し、（Ａ）は弾性部材の付勢力により一方当接体と他方当接体とが近接した状態、（Ｂ）は弾性部材の付勢力に抗して一方当接体と他方当接体とを離間させた状態、（Ｃ）はまな板の端部が差し込まれた状態、（Ｄ）は一方当接体と他方当接体とでまな板を挟持した状態を示す図である。

【図９】本発明の第三の実施の形態に係るまな板用アタッチメントを示し、（Ａ）は通常状態、（Ｂ）は一方当接体の当接面と他方当接体の当接面との距離がまな板の厚さよりも長くなるように離間させた状態、（Ｃ）はまな板の端部が差し込まれた状態、（Ｄ）は一方当接体と他方当接体とでまな板を挟持した状態を示す図である。

【図１０】本発明の第四の実施の形態に係るまな板用アタッチメントを示し、（Ａ）は通常状態、（Ｂ）は一方当接体の当接面と他方当接体の当接面との距離がまな板の厚さよりも長くなるように離間させた状態、（Ｃ）はまな板の端部が差し込まれた状態、（Ｄ）は一方当接体と他方当接体とでまな板を挟持した状態を示す図である。

【図１１】本発明の第五の実施の形態に係るまな板用アタッチメントを示し、（Ａ）は通常状態、（Ｂ）はまな板の端部が差し込まれた状態、（Ｃ）は一方当接体と他方当接体とでまな板を挟持した状態を示す図である。
【図１２】本発明の第六の実施の形態に係るまな板用アタッチメントを示し、（Ａ）は通常状態、（Ｂ）はまな板の端部が差し込まれた状態、（Ｃ）は一方当接体と他方当接体とでまな板を挟持した状態を示す図である。
【図１３】従来のまな板用アタッチメントの一例を示し、（Ａ）は斜視図、（Ｂ）は厚さの厚いまな板に取り付けた状態、（Ｃ）は厚さの薄いまな板に取り付けた状態で示す図である。
【発明を実施するための形態】
【００２７】
以下、添付図面に基づいて本発明の第一の実施の形態に係るまな板用アタッチメントを説明する。
図１乃至図６には、本発明の第一の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳを示している。本まな板用アタッチメントＳは、例えば樹脂で形成され、表面２及び裏面３を有し載置面Ｍに載置されて用いられる矩形状のまな板１の端部４に着脱可能に取り付けられ、まな板１の端部４を載置面Ｍに対して支承する支承部１０と、支承部１０をまな板１の端部４に取り付ける取付部２０とを備えて構成されている。
本まな板用アタッチメントＳは、その使用の仕方で、取り付けの数及び取付け部位を適宜定める。例えば、このまな板用アタッチメントＳを一対用い、図３に示すように、まな板１の一端部４ａ若しくは他端部４ｂのどちらか一方のみに取り付けても良く、また、図４に示すように、まな板１の一端部４ａ及び他端部４ｂの両方に取り付けても良い。
実施の形態では、矩形状の一般的なまな板１を用いているが、必ずしもこれに限定されるものではなく、例えば、円形状，三角形状，多角形状等の種々の形状のものであっても良い。
【００２８】
取付部２０は、まな板１の表面２及び裏面３のいずれか一方に当接する当接面２１ａを有した一方当接体２１と、まな板１の表面２及び裏面３のいずれか他方に当接する当接面２２ａを有した他方当接体２２と、一方当接体２１及び他方当接体２２をまな板１の表裏面３に直交する方向に近接，離間可能に接続し近接時に一方当接体２１及び他方当接体２２によりまな板１の端部４を挟持させる挟持手段３０とを備えて構成されている。
【００２９】
一方当接体２１は、円錐台状に形成され、面積の大きい方の面が当接面２１ａとして構成されるとともに、面積の小さい方の面に支承部１０が一体形成されている。
他方当接体２２は、円錐台状に形成された部分に、その面積の大きい方の面に先端面２３を当接面２２ａとし当接面２２ａに直交する軸心を有した雄ネジ部２４が一体形成されるとともに、面積の小さい方の面に支承部１０が一体形成されている。
【００３０】
この支承部１０は、硬質に形成されるとともに載置面Ｍに接触する外面１１が弧面に形成されており、この弧面が一方当接体２１の側面２１ｂ及び他方当接体２２の側面２２ｂに連続して面一になるように、一方当接体２１及び他方当接体２２に一体形成されている。即ち、支承部１０の形成部は、一方当接体２１及び他方当接体２２と一体形成されて、その形状が半球状になるように形成されている。
また、支承部１０の外面１１，一方当接体２１の側面２１ｂ及び他方当接体２２の側面２２ｂには、模様が描かれている。
尚、本第一の実施の形態では、支承部１０を一方当接体２１及び他方当接体２２の両方に形成しているが、支承部１０は一方当接体２１及び他方当接体２２の少なくともいずれか一方に設けてあれば良く、適宜変更して差し支えない。
【００３１】
挟持手段３０は、一方当接体２１に設けられ一方当接体２１の当接面２１ａに所定間隔

離間して対面する所定厚さの横板３１と、横板３１の一端３１ａを一方当接体２１に支持する支持材３２と、横板３１の略中央に形成され当接面２１ａに直交する軸心を有した雌ネジ部３３と、他方当接体２２に設けられ雌ネジ部３３に螺合する上記の雄ネジ部２４とを備えて構成されている。

【００３２】

支持材３２は、一方当接体２１の当接面２１ａに直交する方向の軸線を有して外面３２ａが弧面の蒲鉾形状に形成され、この弧面が一方当接体２１の側面２１ｂに連続するように一方当接体２１に設けられている。また、この支持材３２の上端に横板３１が一体形成されて設けられている。

また、一方当接体２１の当接面２１ａと当接面２１ａに対面する横板３１の下面３１ｂとの距離、即ち、支持材３２の軸線方向長さは、一般的なまな板１の厚さよりも長く形成されている。

【００３３】

従って、この第一の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳをまな板１に取り付けるときは、例えば、図２（Ａ）に示すように、一方当接体２１と他方当接体２２とを離間させた状態で、図２（Ｂ）に示すように、一方当接体２１の当接面２１ａと横板３１の下面３１ｂとの間の空間にまな板１の端部４が差し込まれるようにし、一方当接体２１の当接面２１ａをまな板１の表面２及び裏面３のいずれか一方（実施の形態では裏面３）に当接させる。この状態で、他方当接体２２を、その雄ネジ部２４を横板３１に形成された雌ネジ部３３に捻じ込んでいく。

【００３４】

このとき、他方当接体２２は、その軸心がまな板１の表面２及び裏面３に直交する方向に沿う方向となって、その先端面２３が一方当接体２１の当接面２１ａに向かって近接していく。そして、他方当接体２２を捻じ込んでいくと、図２（Ｃ）に示すように、その先端面２３がまな板１の表面２及び裏面３のいずれか他方（実施の形態では表面２）に当接する。これによって、一方当接体２１と他方当接体２２とでまな板１を強固に挟持して取り付けることができる。

【００３５】

この場合、一方当接体２１及び他方当接体２２はまな板１の表面２及び裏面３に直交する方向に近接するので、まな板１の厚さに関わらず、一方当接体２１の当接面２１ａ及び他方当接体２２の当接面２２ａをまな板１の表裏面３に接合させて確実に当接させることができる。そのため、載置面Ｍにまな板１を載置したとき、支承部１０の載置面Ｍに対する接触が安定し、それだけ、まな板１の載置面Ｍに対する固定安定性を向上させることができる。また、一方当接体２１の当接面２１ａ及び他方当接体２２の当接面２２ａをまな板１の表面２及び裏面３に確実に当接させることができるので、一方当接体２１及び他方当接体２２で確実にまな板１を挟持することができ、そのため、一方当接体２１及び他方当接体２２をまな板１に対して強固に取り付けることができる。

【００３６】

そして、本第一の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳをまな板１の一端部４ａ若しくは他端部４ｂのどちらか一方のみ（実施の形態では一端部４ａ）に一対取り付けて使用するときは、図５に示すように、一方当接体２１及び他方当接体２２のどちらか一方を載置面Ｍ側にして（支承部１０が一方当接体２１及び他方当接体２２のどちらか一方にのみ設けられている場合は支承部１０が設けられている方を載置面Ｍ側にして）、まな板１を載置面Ｍに載置する。まな板１を載置すると、支承部１０と、本まな板用アタッチメントＳが取り付けられていないまな板１の一端部４ａ若しくは他端部４ｂ（実施の形態では他端部４ｂ）の下側縁５とが載置面Ｍに接触し、まな板１は載置面Ｍに対して傾斜して載置されるようになる。

【００３７】

この状態でまな板１を使用すると、まな板１は載置面Ｍに対して傾斜して載置されているので、例えば、水洗いした野菜等の食材から落ちた水が、調理する面を流下してまな板

１から流れ落ちるようになり、そのため、まな板１及び食材の水切れが良くなる。また、調理する面に水を注ぐことで水が流下することから、まな板１を載置面Ｍに載置したまま比較的簡単に洗うことができる。更に、支承部１０を硬質に形成しているので、ゴム等で形成した場合と比較して、まな板１の使用時に本体が上下動しなくなり、そのため、まな板１の載置面Ｍに対する固定安定性がより一層向上される。更にまた、一方当接体２１及び他方当接体２２は着脱可能に形成されているので、一方当接体２１及び他方当接体２２を取り外せば、傾斜のない普通のまな板１として用いることができる。

【００３８】

また、本第一の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳをまな板１の一端部４ａ及び他端部４ｂの両方に一対ずつ取り付けて使用するときは、図６に示すように、一方当接体２１及び他方当接体２２のうち支承部１０が設けられている方を載置面Ｍ側にして（支承部１０が一方当接体２１及び他方当接体２２のどちらか一方にのみ設けられている場合は支承部１０が設けられている方を載置面Ｍ側にして）、まな板１を載置面Ｍに載置する。まな板１を載置すると、まな板１の一端部４ａ及び他端部４ｂに設けられた支承部１０が載置面Ｍに接触し、まな板１は載置面Ｍに対峙する面（実施の形態では裏面３）が載置面Ｍに平行且つ載置面Ｍから離間した状態で載置されるようになる。

【００３９】

この状態でまな板１を使用すると、まな板１は載置面Ｍに対峙する面（実施の形態では裏面３）が載置面Ｍから離間して載置されているので、この載置面Ｍに対峙する面は衛生的で綺麗であり、そのため、調理した面が汚れた場合に、まな板１の表面２及び裏面３を逆にすることで綺麗な面で調理を行なうことができるようになり、逐一まな板１を洗わなくても使用できるようになり、それだけ、調理の手間を省くことができる。

【００４０】

また、本第一の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳをまな板１に取り付けて使用すると、支承部１０の外面１１は弧面に形成されているので、載置された状態では、支承部１０と載置面Ｍとが確実に接触し、そのため、支承部１０の載置面Ｍに対する接触が安定するので、まな板１の載置面Ｍに対する固定安定性をより一層向上させることができる。更に、支承部１０を一方当接体２１及び他方当接体２２の両方に設けたので、まな板１の表面２及び裏面３の両面に支承部１０が設けられるようになり、そのため、まな板１の表面２と裏面３とが特定されず、どちらの面も同様に使用することができる。

【００４１】

図７及び図８には、本発明の第二の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳを示している。この第二の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳにおいて、一方当接体２１は、円錐台状に形成され、面積の大きい方の面が当接面２１ａとして構成されるとともに、面積の小さい方の面に支承部１０が一体形成されている。また、他方当接体２２は、円錐台状に形成され、面積の大きい方の面が当接面２２ａとして構成されるとともに、面積の小さい方の面に支承部１０が一体形成されている。

【００４２】

また、挟持手段３０は、一方当接体２１及び他方当接体２２間に設けられ、付勢力により一方当接体２１及び他方当接体２２を近接させてまな板１の端部４を挟持させ、付勢力に抗して一方当接体２１及び他方当接体２２を離間させたとき上記の挟持を解除可能にする弾性部材３４で構成されている。この弾性部材３４は一方当接体２１及び他方当接体２２間に一対設けられている。

【００４３】

弾性部材３４としては、コイルスプリングや輪ゴム等が挙げられる。

図７には、弾性部材３４としてコイルスプリングを用いた例を示している。この一対のコイルスプリングは、夫々両端部４が一方当接体２１及び他方当接体２２に固着されている。

図８には、弾性部材３４として輪ゴムを用いた例を示している。この一対の輪ゴムは、一方当接体２１及び他方当接体２２に夫々一対ずつ形成されたスリット２５に係止されて

いる。

【００４４】

本第二の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳをまな板１に取り付けるときは、例えば、図７（Ａ）及び図８（Ａ）に示すように、一方当接体２１及び他方当接体２２が弾性部材３４の付勢力によって近接している状態で、図７（Ｂ）及び図８（Ｂ）に示すように、一方当接体２１及び他方当接体２２を把持し、一方当接体２１及び他方当接体２２を弾性部材３４の付勢力に抗して離間させ、図７（Ｃ）及び図８（Ｃ）に示すように、一方当接体２１の当接面２１ａ及び他方当接体２２の当接面２２ａ間にまな板１の端部４が差し込まれるようにする。このとき、まな板１のコーナ部が一方当接体２１の当接面２１ａ及び他方当接体２２の当接面２２ａ間に差し込まれるようにする。この状態で、一方当接体２１及び他方当接体２２の把持を解除する。これによって、一方当接体２１及び他方当接体２２は、弾性部材３４の付勢力によってまな板１の表面２及び裏面３に直交する方向に近接し、図７（Ｄ）及び図８（Ｄ）に示すように、一方当接体２１の当接面２１ａ及び他方当接体２２の当接面２２ａがまな板１の表面２及び裏面３に当接するようになるので、一方当接体２１と他方当接体２２とでまな板１を強固に挟持して取り付けることができる。

これによっても上記第一の実施の形態と同様の作用，効果を奏する。

【００４５】

図９には、本発明の第三の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳを示している。この第三の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳは、上記第二の実施の形態のまな板用アタッチメントＳとは挟持手段３０が異なっている。

【００４６】

この挟持手段３０は、一方当接体２１の当接面２１ａに支持され当接面２１ａに直交する軸心を有した一方雄ネジ部３５と、他方当接体２２の当接面２２ａに支持され当接面２２ａに直交する軸心を有し一方雄ネジ部３５に対して逆ネジに形成される他方雄ネジ部３６と、一方雄ネジ部３５及び他方雄ネジ部３６に夫々螺合される一方雌ネジ３７ａ及び他方雌ネジ３７ｂを有し一方向回転時に一方雄ネジ部３５及び他方雄ネジ部３６を近接させ他方向回転時に一方雄ネジ部３５及び他方雄ネジ部３６を離間させるナット３７とを備えて構成されている。

【００４７】

本第三の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳをまな板１に取り付けるときは、例えば、図９（Ｂ）に示すように、一方雄ネジ部３５及び他方雄ネジ部３６にナット３７の一方雌ネジ３７ａ及び他方雌ネジ３７ｂを夫々螺合させて一方当接体２１の当接面２１ａと他方当接体２２の当接面２２ａとの距離をまな板１の厚さより長く保持しておく。この状態で、図９（Ｃ）に示すように、一方当接体２１の当接面２１ａ及び他方当接体２２の当接面２２ａ間にまな板１の端部４が差し込まれるようにし、その後、ナット３７を一方向に回転させる。これによって、一方雄ネジ部３５及び他方雄ネジ部３６がナット３７に捻じ込まれて一方当接体２１及び他方当接体２２がまな板１の表面２及び裏面３に直交する方向に近接していき、図９（Ｄ）に示すように、一方当接体２１の当接面２１ａ及び他方当接体２２の当接面２２ａがまな板１の表面２及び裏面３に当接するようになるので、一方当接体２１と他方当接体２２とでまな板１を強固に挟持して取り付けることができる。

これによっても上記第一及び第二の実施の形態と同様の作用，効果を奏する。

【００４８】

図１０には、本発明の第四の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳを示している。この第四の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳは、上記第二及び第三の実施の形態のまな板用アタッチメントＳとは挟持手段３０が異なっている。

【００４９】

この挟持手段３０は、頭部４１ａを有するとともに少なくとも先端部に雄ネジ４１ｂが形成されたボルト４１と、ボルト４１の雄ネジ４１ｂに螺合する雌ネジ（図示せず）を有

したナット４２と、一方当接体２１の端部から当接面２１ａに連続して外方に突出しボルト４１が挿通されるボルト挿通孔４３ａが形成された一方突出部４３と、他方当接体２２の端部から当接面２２ａに連続して外方に突出しボルト４１が挿通されるボルト挿通孔４４ａが形成された他方突出部４４とを備えて構成されている。

【００５０】

本第四の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳをまな板１に取り付けるときは、例えば、図１０（Ｂ）に示すように、一方突出部４３のボルト挿通孔４３ａ及び他方突出部４４のボルト挿通孔４４ａにボルト４１を挿通して一方当接体２１の当接面２１ａと他方当接体２２の当接面２２ａとの距離をまな板１の厚さより長く保持しておく。この状態で、図１０（Ｃ）に示すように、一方当接体２１の当接面２１ａ及び他方当接体２２の当接面２２ａ間にまな板１の端部４が差し込まれるようにし、その後、ボルト４１の雄ネジ４１ｂにナット４２の雌ネジ（図示せず）を螺合させて捻じ込んでいく。これによって、一方当接体２１及び他方当接体２２がまな板１の表面２及び裏面３に直交する方向に近接していき、図１０（Ｄ）に示すように、一方当接体２１の当接面２１ａ及び他方当接体２２の当接面２２ａがまな板１の表面及び裏面３に当接するようになるので、一方当接体２１と他方当接体２２とでまな板１を強固に挟持して取り付けることができる。

これによっても上記第一乃至第三の実施の形態と同様の作用，効果を奏する。

【００５１】

図１１には、本発明の第五の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳを示している。この第五の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳは、上記第二乃至第四の実施の形態のまな板用アタッチメントＳとは挟持手段３０が異なっている。

【００５２】

この挟持手段３０は、一方当接体２１に設けられ一方当接体２１の当接面２１ａに平行な方向に延びて設けられる横架材４５と、横架材４５の一端４５ａを一方当接体２１に支持する支持部材４６と、他方当接体２２に当接面２１ａに直交する方向に所定間隔で複数設けられ横架材４５が差し込まれて係合される係合部４７とを備えて構成されている。

【００５３】

支持材４６は、一方当接体２１の当接面２１ａに直交する方向の軸線を有して外面４６ａが弧面の蒲鉾形状に形成され、この弧面が一方当接体２１の側面２１ｂに連続するように一方当接体２１に設けられている。また、この支持材４６の上端に横架材４５が一体形成されて設けられている。

また、一方当接体２１の当接面２１ａと当接面２１ａに対面する横架材４５の下面４５ｂとの距離、即ち、支持材４６の軸線方向長さは、一般的なまな板１の厚さよりも長く形成されている。

【００５４】

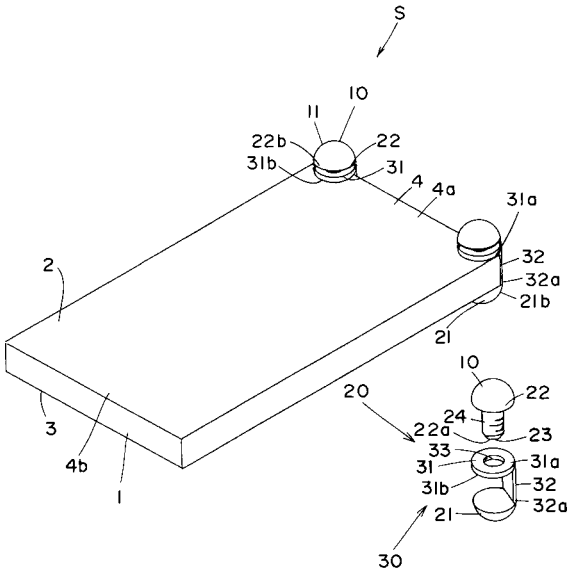
本第五の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳをまな板１に取り付けるときは、例えば、図１１（Ａ）に示すように、一方当接体２１と他方当接体２２とを離間させた状態で、図１１（Ｂ）に示すように、一方当接体２１の当接面２１ａ及び横架材４５間の空間にまな板１の端部４が差し込まれるようにし、一方当接体２１の当接面２１ａをまな板１の表面２及び裏面３のいずれか一方（実施の形態では裏面３）に当接させる。この状態で、図１１（Ｃ）に示すように、他方当接体２２を、その係合部４７を横架材４５に係合させる。このとき、他方当接体２２の当接面２２ａがまな板１の表面２及び裏面３のいずれか他方（実施の形態では表面２）に当接するように、複数設けられた係合部４７のうちから最適な係合部４７を選択して係合させる。この複数の係合部４７は、まな板１の表面２及び裏面３に直交する方向に所定間隔で設けられているので、一方当接体２１及び他方当接体２２をまな板１の表面２及び裏面３に直交する方向に近接，離間させることが可能となり、そのため、一方当接体２１の当接面２１ａ及び他方当接体２２の当接面２２ａを確実にまな板１の表面２及び裏面３に当接させることができるようになるので、一方当接体２１と他方当接体２２とでまな板１を強固に挟持して取り付けることができる。

これによっても上記第一乃至第四の実施の形態と同様の作用，効果を奏する。

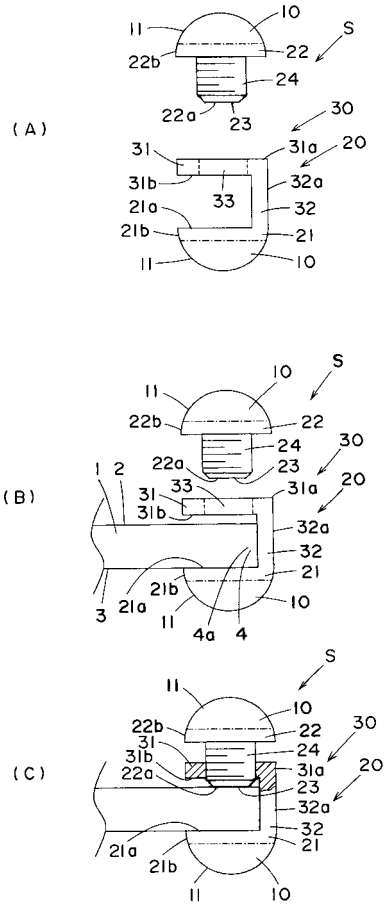
【００５５】
図１２には、本発明の第六の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳを示している。この第六の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳは、上記第二乃至第五の実施の形態のまな板用アタッチメントＳとは挟持手段３０が異なっている。
【００５６】
この挟持手段３０は、一方当接体２１及び他方当接体２２の端部に夫々当接面２１ａ，２２ａに直交する方向に立設され互いに当接面２１ａ，２２ａに直交する方向に相対移動可能に接合される支柱４８と、支柱４８の一方に当接面２１ａに直交する方向に所定間隔で突出形成される複数の係合凸部４８ａと、支柱４８の他方に当接面２２ａに直交する方向に所定間隔で形成され係合凸部４８ａが係合される複数の係合凹部４８ｂとを備えて構成されている。
【００５７】
一方の支柱４８は一方当接体２１に立設されており、この支柱４８から突出形成された係合凸部４８ａの先端には上方に向けて隆起する隆起部４９ａが形成されている。また、他方の支柱４８は他方当接体２２に立設されており、この支柱４８に形成された係合凹部４８ｂの基端には隆起部４９ａが係合される係合部４９ｂが形成されている。
【００５８】
本第六の実施の形態に係るまな板用アタッチメントＳをまな板１に取り付けるときは、例えば、図１２（Ａ）に示すように、一方当接体２１と他方当接体２２とを離間させた状態で、図１２（Ｂ）に示すように、一方当接体２１及び他方当接体２２のいずれか一方の当接面２１ａ、２２ａ（実施の形態では一方当接体２１の当接面２１ａ）を、まな板１の表面２及び裏面３のいずれか一方（実施の形態では裏面３）に当接させ、その後、図１２（Ｃ）に示すように、一方当接体２１及び他方当接体２２のいずれか他方の当接面２１ａ、２２ａ（実施の形態では他方当接体２２の当接面２２ａ）がまな板１の表面２及び裏面３のいずれか他方（実施の形態では表面２）に当接するように、一方当接体２１及び他方当接体２２のいずれか一方の支柱４８の係合凸部４８ａと一方当接体２１及び他方当接体２２のいずれか他方の支柱４８の係合凹部４８ｂとを係合させる。このとき、係合凸部４８ａ及び係合凹部４８ｂはまな板１の表面２及び裏面３に直交する方向に所定間隔で複数設けられているので、一方当接体２１及び他方当接体２２を相対移動させて、複数の係合凸部４８ａ及び係合凹部４８ｂのうちから最適な係合凸部４８ａ及び係合凹部４８ｂを選択して係合させる。即ち、一方当接体２１及び他方当接体２２をまな板１の表面２及び裏面３に直交する方向に近接，離間させることが可能となり、そのため、一方当接体２１の当接面２１ａ及び他方当接体２２の当接面２２ａを確実にまな板１の表面２及び裏面３に当接させることができるようになるので、一方当接体２１と他方当接体２２とでまな板１を強固に挟持して取り付けることができる。
これによっても上記第一乃至第五の実施の形態と同様の作用，効果を奏する。
【００５９】
尚、上記実施の形態において、支承部１０の外面１１を弧面に形成して、支承部１０の形成部を、一方当接体２１及び他方当接体２２と一体形成して、その形状が半球状になるように形成したが、必ずしもこれに限定されるものではなく、例えば、円錐台状や球状であっても良く、適宜変更して差支えない。
【符号の説明】
【００６０】
Ｓ　まな板用アタッチメント
Ｍ　載置面
１　まな板
２　表面
３　裏面
４　端部
４ａ　一端部

４ｂ　他端部
５　下側縁
１０　支承部
１１　外面
２０　取付部
２１　一方当接体
２１ａ　当接面
２１ｂ　側面
２２　他方当接体
２２ａ　当接面
２２ｂ　側面
２３　先端面
２４　雄ネジ部
２５　スリット
３０　挟持手段
３１　横板
３２　支持材
３３　雌ネジ部
３４　弾性部材
３５　一方雄ネジ部
３６　他方雄ネジ部
３７　ナット
４１　ボルト
４２　ナット
４３　一方突出部
４４　他方突出部
４５　横架材
４６　支持部材
４７　係合部
４８　支柱
４８ａ　係合凸部
４８ｂ　係合凹部
４９ａ　隆起部
４９ｂ　係合部

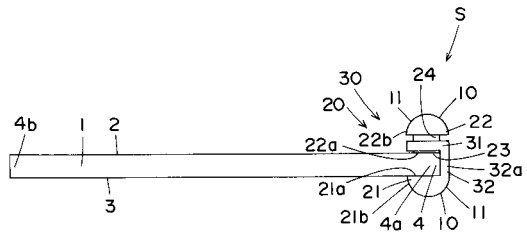
【図１】



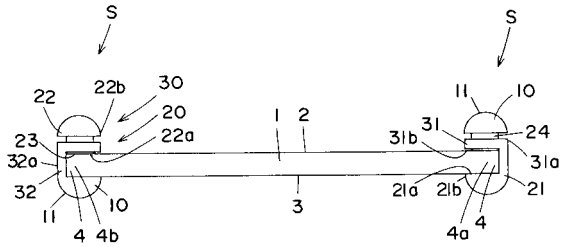
【図２】



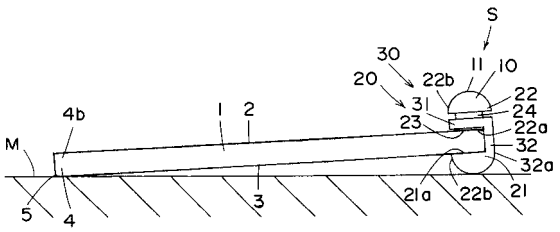
【図３】



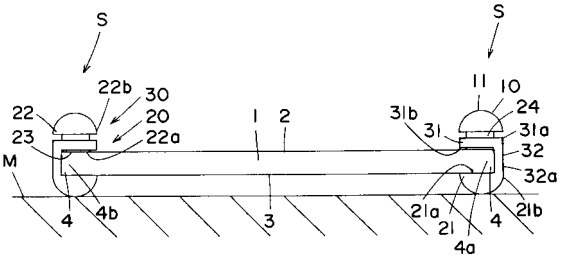
【図４】



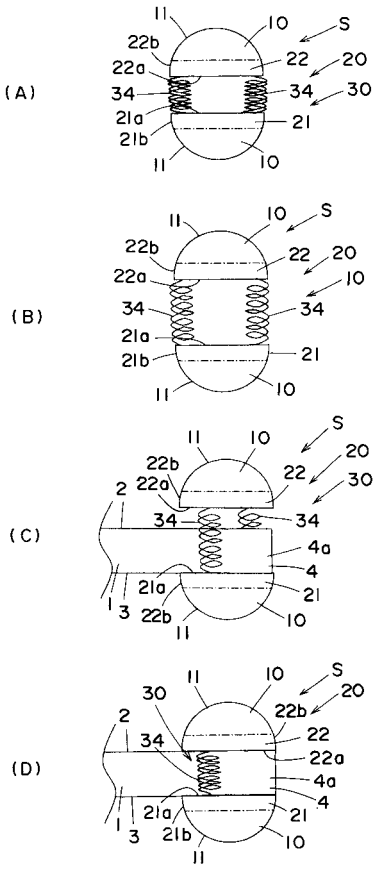
【図５】



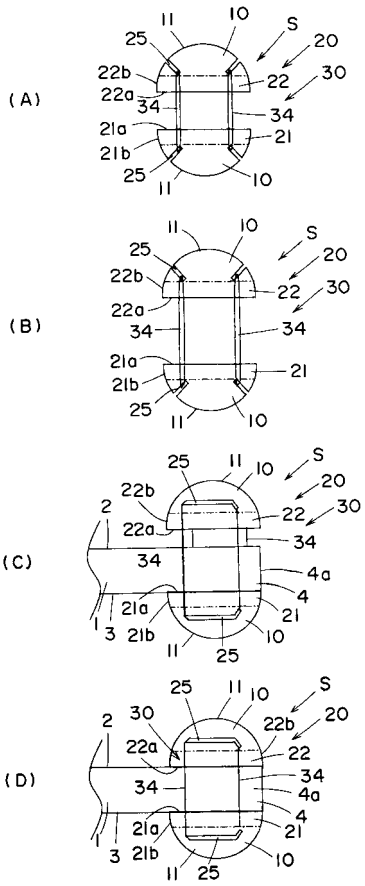
【図６】



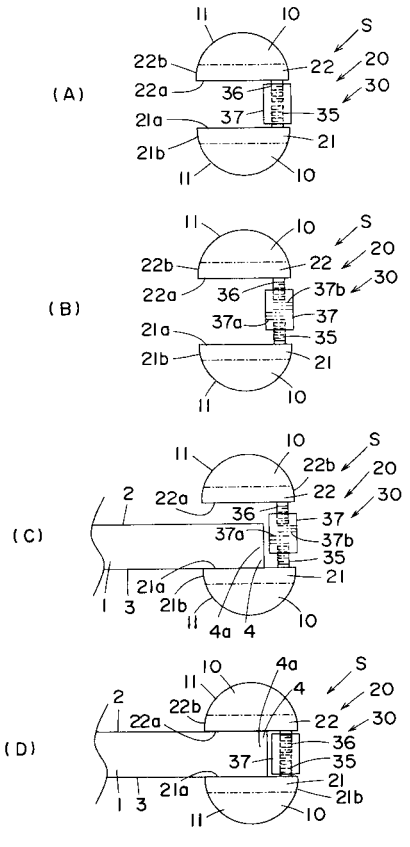
【図７】


(A)
(B)
(C)
(D)
S
10
11
20
21
22
22a
22b
30
34
2
3
4
4a
21a
21b

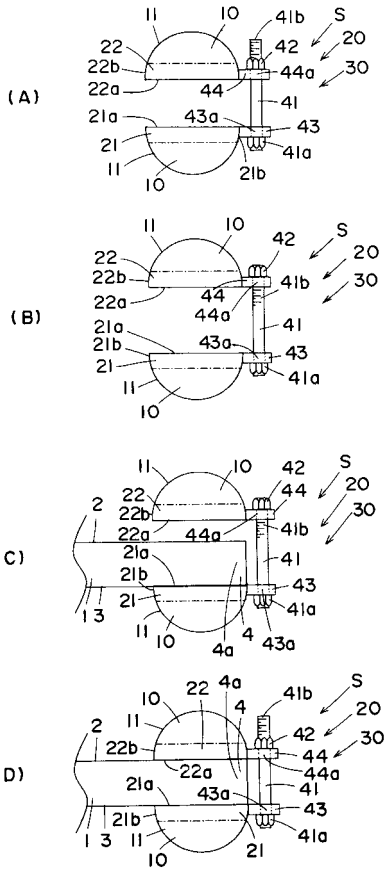
【図８】


(A)
(B)
(C)
(D)
S
10
11
20
21
22
22a
22b
25
30
34
2
3
4
21a
21b

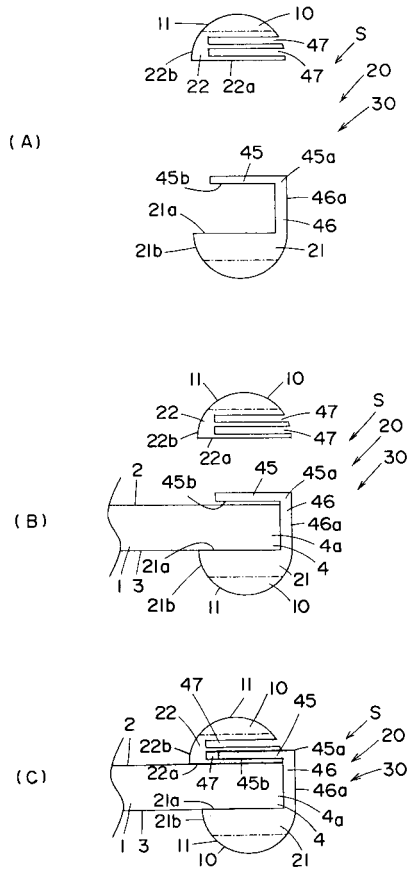
【図９】


(A)
(B)
(C)
(D)
S
10
11
20
21
22
22a
22b
30
34
35
36
37
37a
37b
2
3
4
4a
21a
21b

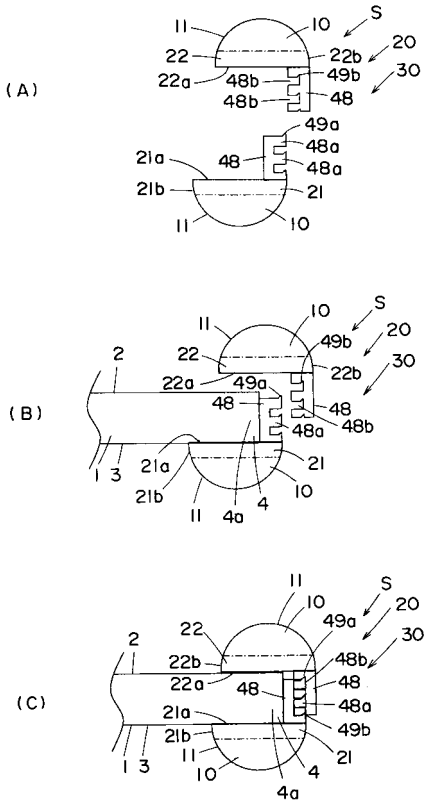
【図１０】


(A)
(B)
(C)
(D)
S
10
11
20
21
22
22a
22b
30
41
41a
41b
42
43
43a
44
44a
2
3
4
4a
21a
21b

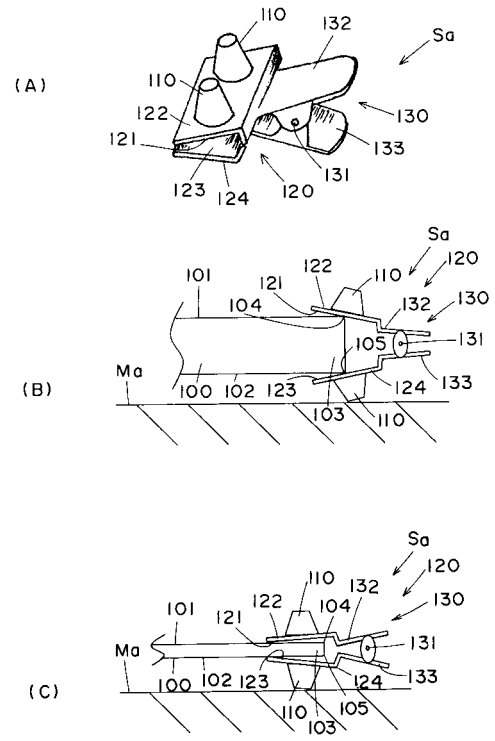
【図１１】


(A)
11
10
47
S
22b
22
22a
47
20
30
45
45a
45b
46a
21a
46
21b
21
(B)
11
10
22
47
S
22b
47
20
22a
30
2
45b
45
45a
46
46a
4a
21a
4
1 3
21
21b
11
10
(C)
47
11
10
45
22
S
2
22b
45a
20
22a
47
45b
46
30
46a
21a
4a
21b
1 3
11
4
10
21

【図１２】


(A)
11
10
S
22
22b
20
22a
48b
49b
30
48b
48
49a
48a
21a
48
48a
21b
21
11
10
(B)
11
10
S
2
49b
20
22
22b
30
22a
49a
48
48
48a
48b
21a
21
1 3
21b
10
11
4a
4
(C)
11
10
S
20
22
49a
30
2
48b
22b
48
22a
48
48a
21a
49b
21b
11
21
1 3
10
4
4a

【図１３】


(A)
110
132
Sa
110
130
122
121
133
131
123
124
120
(B)
Sa
101
122
110
120
121
104
132
130
105
131
Ma
100
102
123
124
133
103
110
(C)
Sa
120
110
132
101
122
104
130
121
131
Ma
100
102
123
124
133
110
105
103